

予防接種について

世界で最初の予防接種をしたのは誰もが知っているジェンナー（イギリスの田舎の開業・外科医）。乳搾りの女に天然痘患者が居ないことに注目、1778～18年間研究し、ついに牛痘に感染した女性の膿（うみ）を健康な少年に接種したところ、後、天然痘の膿を接種しても発症しなかったのが証明できました。

しかしイギリスの医学会はなかなか認めませんでした。国内で天然痘が大流行してやっと認められました。最初、ジェンナーが接種したのは自分の息子だったと喧伝えましたが、実は使用人の8歳の息子だったようです。でも、その7年前には自分の息子にも接種はしていました。

そもそも免疫とはどういうことなのでしょう。この空中にはウイルスや細菌がうようよして、それが体内にはいると様々な感染症を引き起こします。それに対する抵抗力＝免疫を体が獲得し、その病気にかからないように働く仕組みなのです。

お母さんから赤ちゃんに贈られた免疫は普通、生後3～8ヶ月までに失われてしまうため、この時期を過ぎると、赤ちゃん自身で免疫をつくる必要があります。その助けの一つが予防接種

です。

予防接種が行われる病気のほとんどは感染力が強く、発症すると有効な治療法がないものもあります。それらの被害を避けたり、軽くすることができるのです。たまに接種のために何らかの副作用が現われることもありますが、救われる人のほうが多いことに目を向けねばならないでしょう。

赤ちゃんの2ヶ月までに受けるワクチン ()内は病名

- ・インフルエンザ菌b型 (髄膜炎、敗血症、肺炎)
- ・肺炎球菌 (髄膜炎、敗血症、菌血症、肺炎、中耳炎)
- ・B型肝炎 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、劇症肝炎)
- ・ロタウイルス胃腸炎 (嘔吐、発熱、水様性下痢)

赤ちゃんの3ヶ月までに受けるワクチン ()内は病名

- ・ジフテリア (鼻汁、発熱、呼吸困難、心筋障害)
- ・百日咳 (せき発作、脳症)
- ・破傷風 (開口障害、けいれん)
- ・3種混合【DPT】 (百日咳、破傷風、ジフテリア)
- ・ポリオ (発熱、まひ)
- ・4種混合【DPT+不活性ポリオ】 解説＝ポリオ様まひ発症の副作用を避けるため、生ワクチンに替え、12年9月から不活性ワクチンになった。

免疫をつくる

病原体(ウイルスや細菌)の全部もしくは一部から作ったワクチンを体内に入れ、病原体から体を守る仕組みである免疫をつくります。

免疫の仕組み(自然に感染した場合)

1 初めて感染 体内に病原体が入り、増え始める
悪い奴、発見。食べちゃうぞ
病原体
ウ～。外敵が侵入!!
1 マクロファージ(パトロール隊)

2 侵入者の情報を得て、ヘルパーT細胞がB細胞に、強力な攻撃隊・抗体を作り始めるよう、指令を出す
新しい侵入者を攻撃する新型抗体作り始め!!
ヘルパーT細胞(司令官)
B細胞(抗体の母)

3 4日程度かかって攻撃システム完成。この間に病原体が大量に増殖する場合がある
敵は多いぞ!! どんどん攻撃だ
抗体
病原体が増殖＝症状が現れる

2回目以降の感染 病原体が再び侵入すると、過去の情報を記憶しているB細胞が、直ちに抗体を作って攻撃を開始
あのときの外敵!!
増殖する前に退治＝症状が現れないか軽症

しばらく感染しないと 体が持つ病原体の記憶が薄れてくる。その結果、高齢になってから発症する場合も
どちらさんじゃったかの～?

ワクチンは 初めて病原体に感染する前に、体に病原体を記憶させ、前もって攻撃態勢を整えさせるもの
抗体は、病原体ごとに作られるスペシャルな攻撃隊だよ

《あしがき》

- 1) 当院職員は今月、大阪南の松竹座で花形歌舞伎を観て来ました。例のテレビの「半沢直樹」で“おねい言葉”をしゃべる歌舞伎俳優・愛之助がこの歌舞伎に出ると言うので一躍人気になり、切符は売り切れ続出のようでした。
- 2) 当院ミニギャラリーは目下宮川浩子さん(若狭町・堤)の油絵です。大作「冬支度」にご注目下さい。